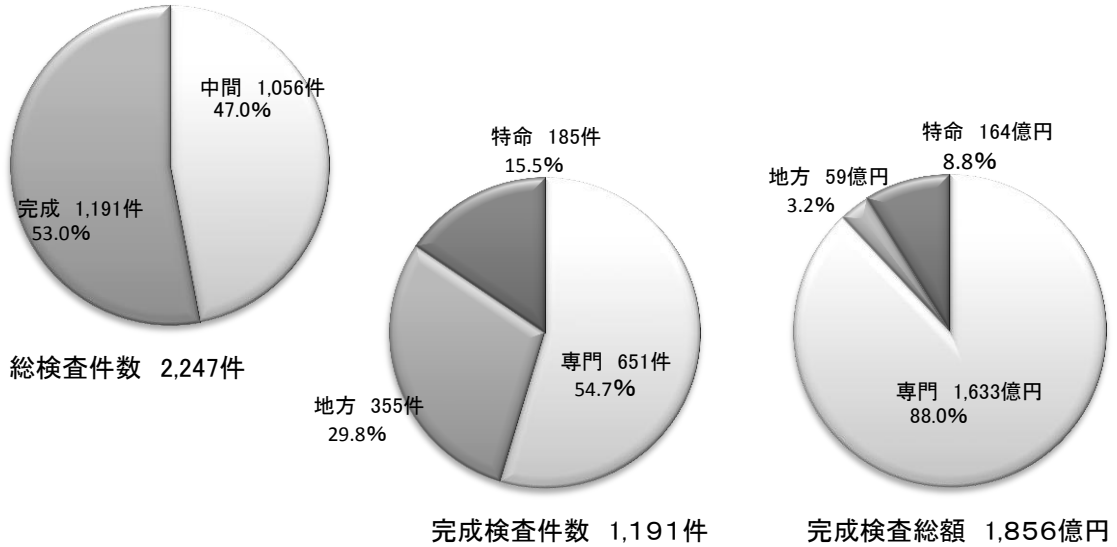


平成26年度の工事検査実績をとりまとめた結果は次のとおりです。
データ集計期間は、平成26年4月1日から平成27年3月31日までです。

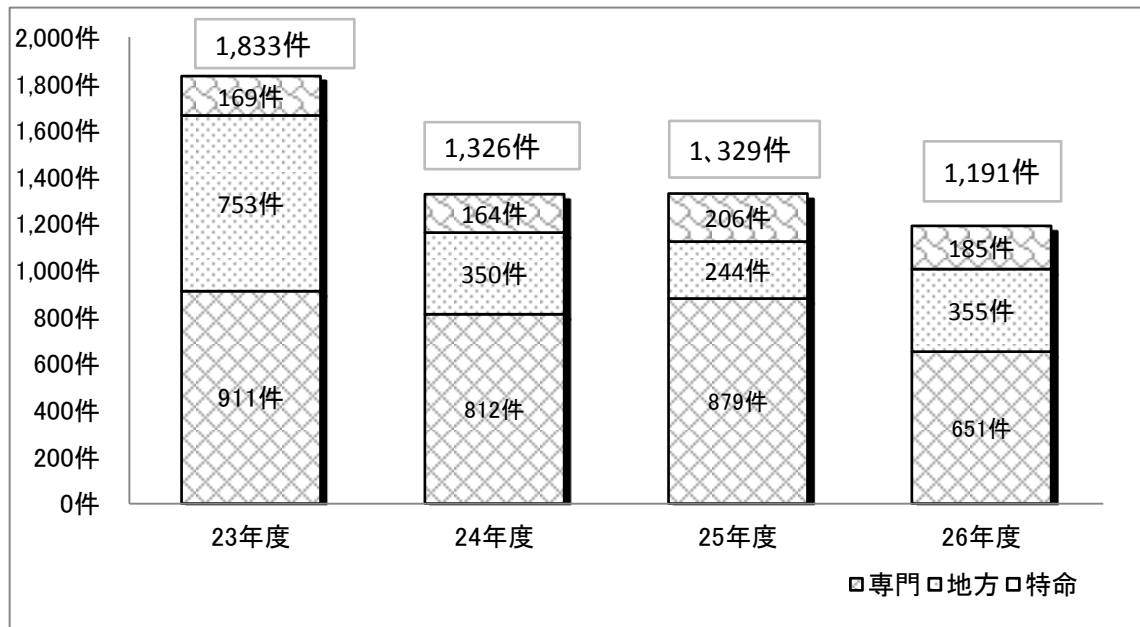
1 実績／全体

① 検査件数／完成／中間



◇平成26年度の総検査件数(専門・地方・特命検査員検査合計)は、2,247件でした。うち、完成検査は1,191件(53.0%)、中間検査は1,056件(47.0%)でした。
完成検査のうち専門検査員検査は651件(54.7%)、1,633億円(88.0%)でした。

② 検査件数／完成／推移



◇平成26年度完成検査件数は前年度から専門検査員検査と特命検査員検査が減少、地方検査員検査が増加し、合計で138件減少しました。

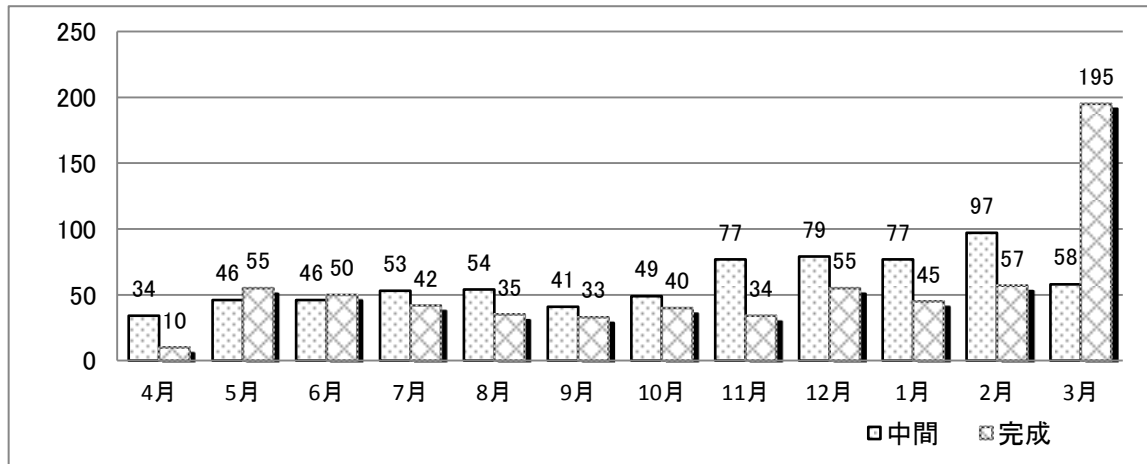
専門検査員は、検査課に所属し、主として契約額が4千万円以上の発注工事を検査。

地方検査員は、県工事検査規程で定められた地方機関に所属し、契約額が4千万円未満の当該機関発注工事を検査。

特命検査員は、主務課長又は所長に所属する職員のうちから任命され、県工事検査執行要領に定められた範囲内の工事を検査。

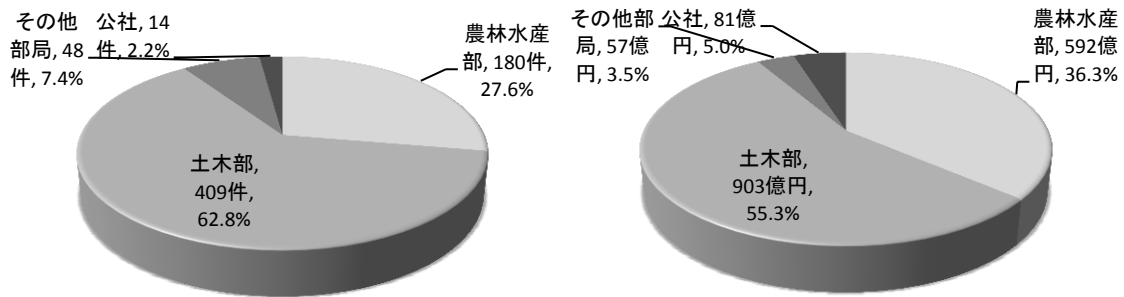
2 実績／専門検査員

① 検査件数／月別



◇月ごとの専門検査員の完成検査件数は、4月が最も少なく、3月が最も多くなり突出しました。
中間検査件数は、11月から2月に約80件/月を連続、下半期が61.5%と多くなりました。

② 検査件数／完成／金額／部局別

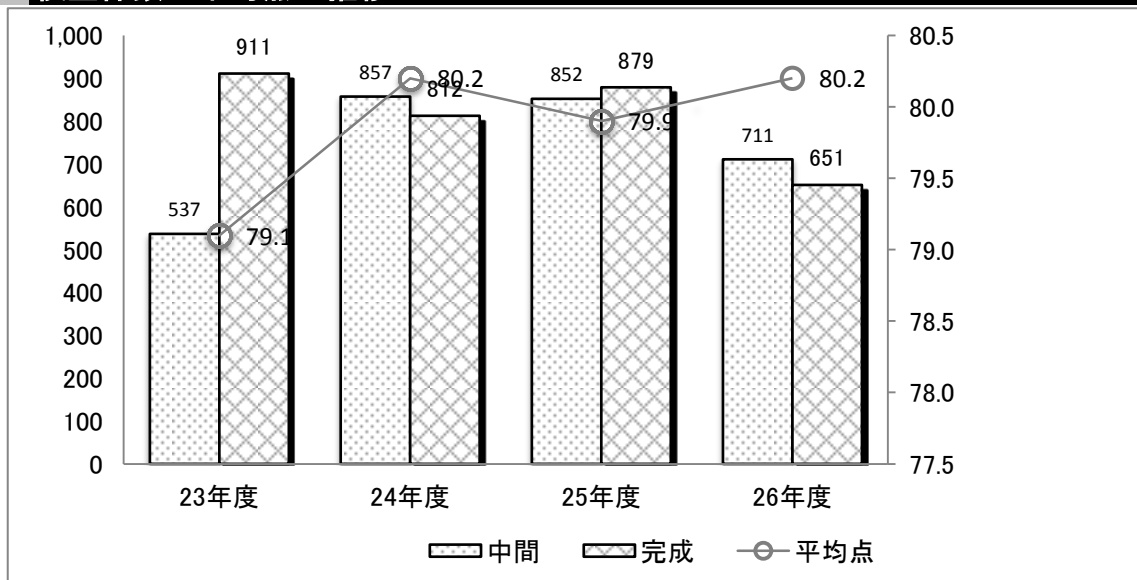


総検査件数 651件

完成検査総額 1,633億円

◇専門検査員の完成検査件数は農林水産部と土木部の工事で90.5%(金額で91.6%)を占めました。

③ 検査件数／平均点／推移



◇専門検査員の完成検査件数は前年から228件の減、中間検査件数は141件の減となりました。
◇工事成績の平均点(考査を行った641件の平均)は、前年度から0.3点高くなりました。

3 中間検査の実施と工事成績／専門検査員

① 検査件数／平均点／中間検査実施率

◇完成検査は考査を行った工事を対象。

	件数	合計点	平均点	中間検査実施率	備考	
H25	検査全体	1,729				
	■ 中間検査	852		97.1%	※1	
	■ 完成検査	877	70,113	79.9	82.6%	※2
	中間検査無	153	12,138	79.3		17.4%
	中間検査有	724	57,975	80.1		82.6%
	□ 低入札工事	109	8,880	81.5	90.8%	※2
	中間検査無	10	775	77.5		9.2%
	中間検査有	99	8,105	81.9		90.8%
	□ 非低入札工事	768	61,233	79.7	81.4%	※2
	中間検査無	143	11,363	79.5		18.6%
	中間検査有	625	49,870	79.8		81.4%
	H26	検査全体	1,352			
■ 中間検査		711		110.9%	※1	
■ 完成検査		641	51,380	80.2	83.0%	※2
中間検査無		109	8,734	80.1		17.0%
中間検査有		532	42,646	80.2		83.0%
□ 低入札工事		60	4,899	81.7	93.3%	※2
中間検査無		4	327	81.8		6.7%
中間検査有		56	4,572	81.6		93.3%
□ 非低入札工事		581	46,481	80.0	81.9%	※2
中間検査無		105	8,407	80.1		18.1%
中間検査有		476	38,074	80.0		81.9%
前年比		検査全体	78.2%			
	■ 中間検査	83.5%			13.8pt	
	■ 完成検査	73.1%		0.3	0.4pt	
	中間検査無	71.2%		0.8		
	中間検査有	73.5%		0.1		
	□ 低入札工事	55.0%		0.2	2.5pt	
	中間検査無	40.0%		4.3		
	中間検査有	56.6%		-0.3		
	□ 非低入札工事	75.7%		0.3	0.5pt	
	中間検査無	73.4%		0.6		
中間検査有	76.2%		0.2			

※1 見掛中間検査実施率:完成検査件数と中間検査件数の単純比率

※2 実質中間検査実施率:完成検査件数とそのうちの中間検査受検済みの完成検査件数の比率

※ 備考欄の「%」は中間検査”無”と中間検査”有”の割合を示す

◇平成26年度の専門検査員による検査件数は1,352件(考査無し10件を除く)で、前年度比78.2%(377件の減少)でした。

◇そのうち、中間検査は711件(前年度比83.5%)、完成検査は641件(前年度比73.1%)でした。

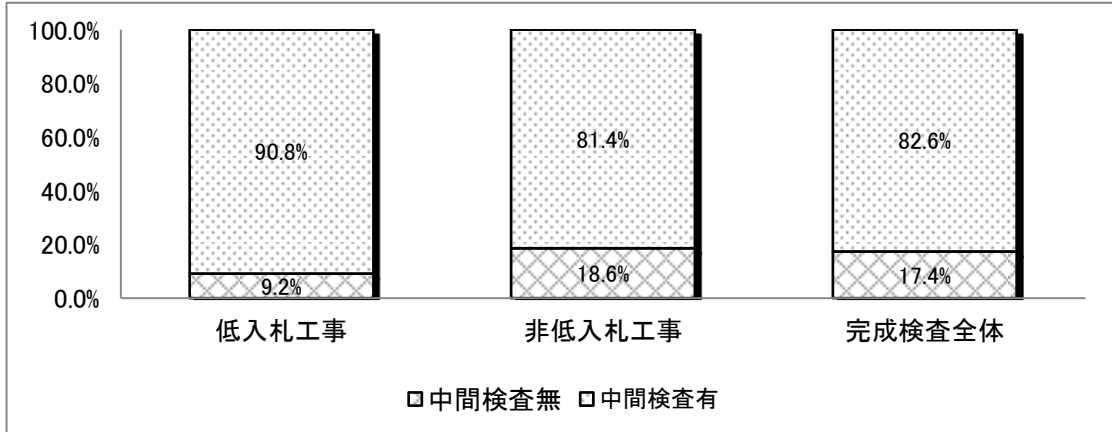
◇完成検査のうち、中間検査を一回以上受検した工事の割合は83.0%でした。

◇工事成績の平均点は、低入札工事では81.7点、非低入札工事では80.0点、全体では80.2点でした。

◇低入札工事と非低入札工事の平均点を比較すると、低入札工事の方がわずかに高く前年度と同様の傾向でした。

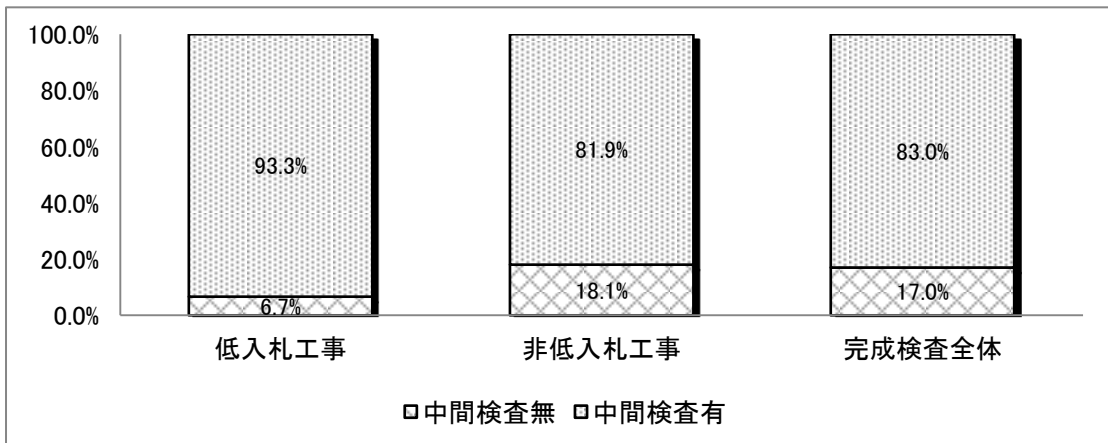
〔中間検査実施率の比較〕

H25年度



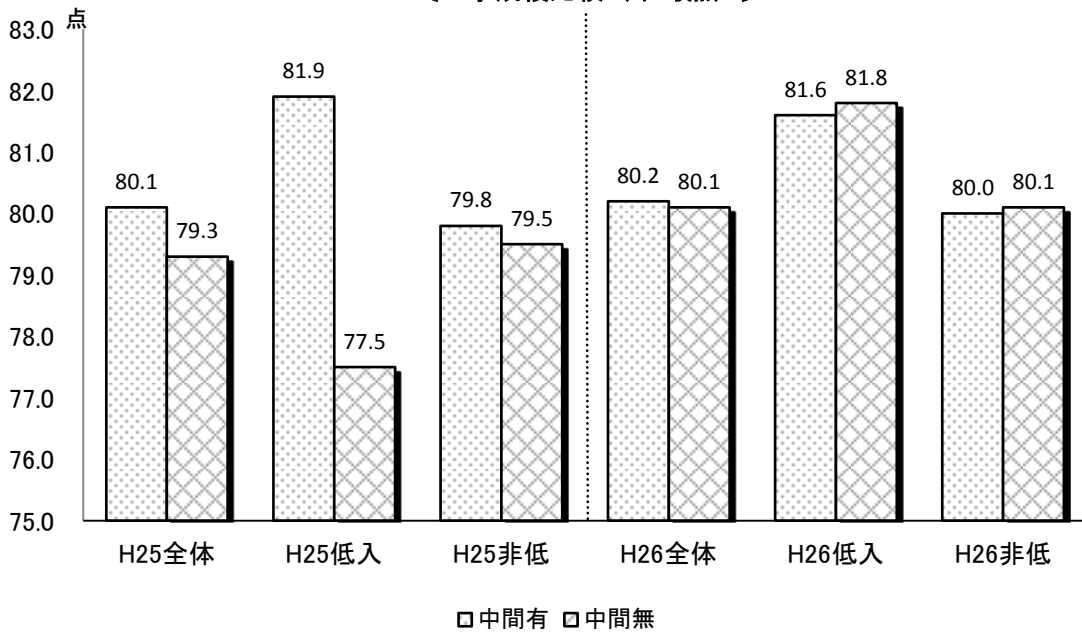
◇平成25年度に実施した完成検査において中間検査を一回以上受検した工事は82.6%、うち低入札工事では90.8%、非低入札工事では81.4%でした。

H26年度



◇平成26年度に実施した完成検査において中間検査を一回以上受検した工事は83.0%、うち低入札工事では93.3%、非低入札工事では81.9%であり、前年度に比べ中間検査実施率が増加しました。

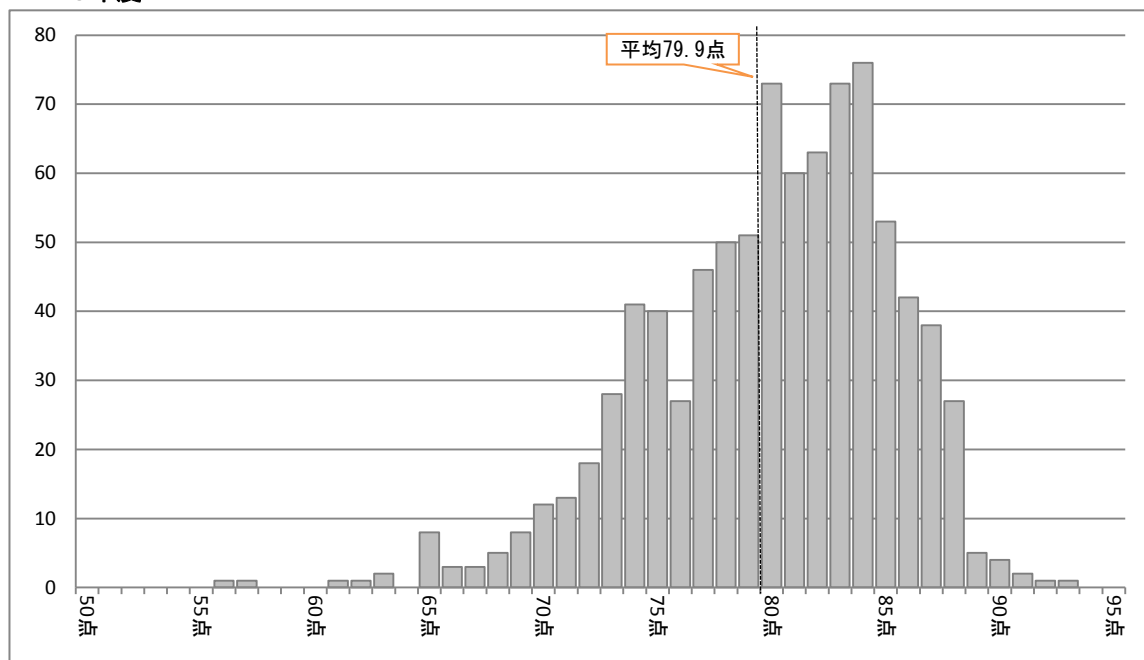
〔工事成績比較（平均点）〕



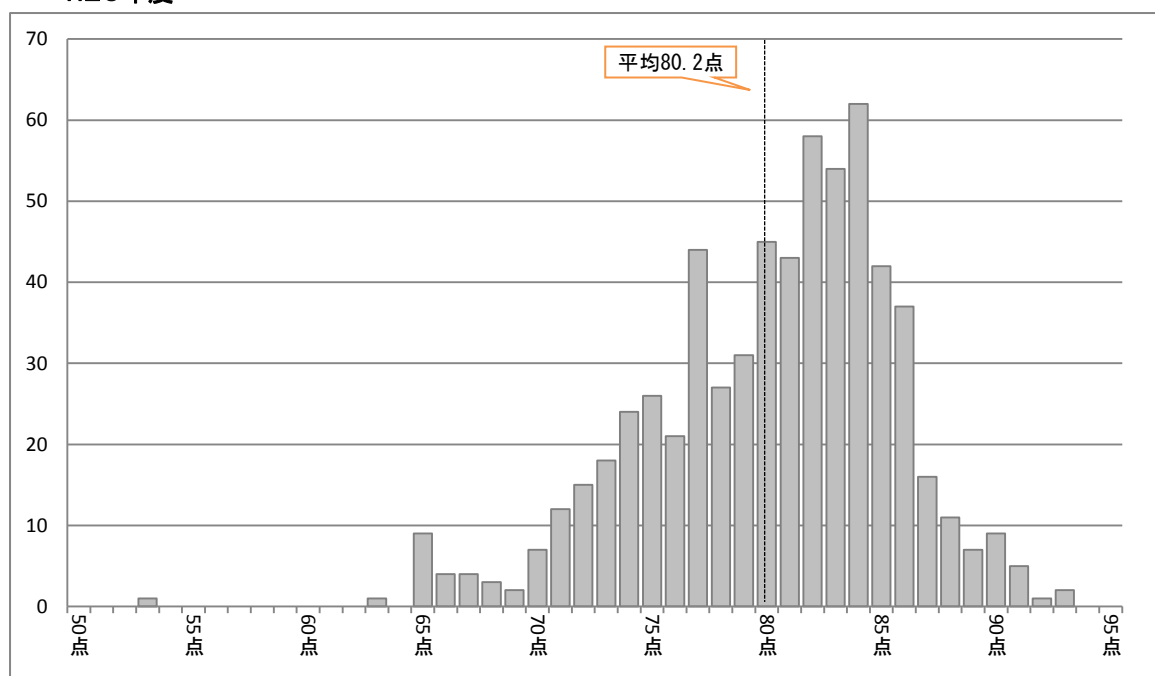
② 工事成績分布

【工事成績の分布】

H25年度



H26年度



◇平成26年度における工事成績平均点は80.2点、最頻値は84点でした。前年度と同様に高得点側に傾く傾向がありました。

5 平成26年度検査結果と主な指導事項

① 平成26年度検査結果

- 完成検査件数は、1,191件と前年度に比べ138件(10.4%)減少しました。うち、専門検査員による検査は651件と前年度に比べ約26%減少し、全体件数に対する割合は54.7%、地方検査員による検査は355件と前年度に比べ約45%増加し、特命検査員による検査は185件と前年度に比べ約10%減少しました。
- 専門検査員による完成検査の工事成績の平均点は、80.2点と前年度(79.9点)に比べわずかに高くなりました。
- 中間検査実施率は83.0%となり、前年度に比べ0.4%微増しました。中間検査の促進については年度目標として掲げてきたものです。工事成績を中間検査の有無で分けると、中間検査を実施したもののの方がわずかながら平均点が高い傾向があります。
- 平成27年度は、前年度からの繰越工事が相当数あり、また、震災復興集中期間5年の最終年度となることから、引き続き建設工事の適正な履行を確認するとともに、安全で高品質な公共施設を提供するため、適正かつ迅速な工事検査を実施してまいります。
- 品質確保のためには工事施工段階での確認や指導が有効な手段であることから、中間検査実施率を高めるよう取り組むとともに、引き続き工事成績評価の客観性、透明性、公平性の向上に取り組んでまいります。

② 検査時における主な指導事項

- 工事請負契約書第18条第1項の規定に基づく設計図書の照査を確認。
- 工事着手前に、必要な手順や工法(具体的な内容)を記載した施工計画書が提出されているかを確認。
- 「施工計画書」において、大雨や地震等の異常気象時における作業中止基準、再開基準及び避難場所、避難経路が具体的に定められているかを確認。
- 下請承認書類、施工体制台帳及び施工体系図が適切に整理されているかを確認。
- 「品質管理」において、工種試験方法、測定頻度及び管理方法等が適切かを確認。
- 「出来形管理」において、工種、測定位置及び測定頻度等が適切かを確認。
- 「写真管理」において、各工事の施工段階、工事完了後に明視できない箇所がないかを確認。
- 「段階確認」において、種別、細別及び確認の段階・時期等が適切かを確認。
- 「品質証明」において、種別、細別、管理項目、管理箇所及び数量が適切かを確認。
- 「安全管理」について、主要な各工事段階における安全施工計画が作成されているか、安全訓練等の実施計画及び安全訓練が実施されているかを確認。
- 「緊急時の体制及び対応」について、労働災害や公衆災害等の発生時における、請負者と警察署、消防署、労働基準監督署等の関係機関への連絡体制及び連絡方法が適切かを確認。
- 「交通管理」について、保安設置計画書及び保守点検計画が適切かを確認。
- 「環境対策」について、騒音・振動・地盤沈下・水質汚濁等に対する配慮が適切で、これらに対する措置が明確かを確認。
- 再生資源の利用の促進と建設副産物の適正な処理方法について、「再生資源利用計画書」及び「建設廃棄物処理計画書」等が作成され、適正に処理されているかを確認。